平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡB(SeminarⅡB)【永松ゼミ】			**授業コード**	E002579
担当教員名	永松　昌樹			**科目ナンバリングコード**	E21202
配当学年	2	**開講期**	後期		
必修・選択区分	必修	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	スポーツ・レクリエーション事業提供者側の視点から、大分県の現状から社会的な問題点を見出し、課題解決に積極的な取り組みに参画することに取り組む姿勢を有する受講者。				
受講心得	経営学部の講義受講心得を順守すること。				
教科書	使用しない。				
参考文献及び指定図書	池田勝著「生涯スポーツの社会経済学」(杏林書院)・守能信次著「スポーツ・ルールの論理」(大修館書店)				
関連科目	生涯スポーツ論・生涯スポーツ演習				

授業の目的	地＜知＞の拠点である本学が大分県を学びのフィールドとして活用するゼミナールの一つとして、スポーツ・レクリエーション事業を有効的に展開するための方策を、ゼミナールⅡBでは「国東半島」を事例に研究の進め方を学びます。
授業の概要	予習では調べ学習が必須となります。事前に提示された課題をあらかじめ、発表できるように準備してください。ゼミナールでは発表と討論を行います。復習では800字に当日のまとめを書き上げることが必要です。自宅にパソコンを準備することでストレスなく、受講できると考えます。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 : オリエンテーション このゼミナールの2年半がどのように進められるのかについて説明します。	**シラバス確認** シラバス予読・履修確認
第 2 週 : ゼミナールⅡBの取り組みと鍵概念の設定① 半年間を通して考察するスポーツ・レクリエーションと関連する鍵概念を抽出します。	**スポーツ・ツーリズム** 概念の理解と将来予測
第 3 週 : ゼミナールⅡBの取り組みと鍵概念の設定② スポーツ・レクリエーションにおける社会的な問題について考えます。	**野外活動** 概念の理解と余暇行動
第 4 週 : ゼミナールⅡBの取り組みと鍵概念の設定③ 前週に抽出された社会的な問題に関する資料の収集方法について学びます。	**グリーン・ツーリズム** 概念の理解と観光行動
第 5 週 : 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源① 国東半島	**国東半島** プロフィール
第 6 週 : 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源② 速見郡日出町①	**速見郡日出町** プロフィール
第 7 週 : 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源③ 速見郡日出町②	**速見郡日出町** プロフィール
第 8 週 : 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源④ 国東市①	**国東市** プロフィール
第 9 週 : 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源⑤	**国東市**

国東市②	プロフィール
第10週： 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源⑥ 東国東郡姫島村①	**東国東郡姫島村** プロフィール
第11週： 地域社会とスポーツ・レクリエーション資源⑦ 東国東郡姫島村②	**東国東郡姫島村** プロフィール
第12週： レジャー・レクリエーション施設の活用状況① 国東半島の現状・野外活動施設①	**滞在時間** 概念の理解
第13週： レジャー・レクリエーション施設の活用状況② 国東半島の現状・野外活動施設	**経済効果** 概念の理解
第14週： 国東半島の観光まちづくり① 滞在体験型レジャー・レクリエーションの現状	**観光経営学** 概念の理解
第15週： 国東半島の観光まちづくり② 滞在・体験型レジャー・レクリエーションの可能性	**観光経済学** 概念の理解
第16週： ゼミナールⅡBのまとめ 観光まちづくりとスポーツ・レクリエーションの必要性	**レポートのまとめ** 成果のまとめ

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	レポートをメールで提出してもらいます。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	生涯スポーツ社会における地域で起きている出来事を理解し、客観的に理解する力を獲得する。
【知識・理解】	スポーツやレクリエーションを活用した地域の活性化に必要なこと、マーケティングの知識を獲得する。
【技能・表現・コミュニケーション】	調査を行える技能、レポート、プレゼンテーションの表現力を獲得する。
【思考・判断・創造】	地域の活性化という難しい課題を、斬新な切り口で考え、新しいアイデアの創出力を獲得する。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**20点**	**20点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**10点**	**10点**	

【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**10点**	**10点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**	**10点**

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	毎回の講義で課題が課されます。したがって、毎回出席していないと、課題も提出できませんので注意してください。 Sレベル：　ゼミの議論を超えて、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Aレベル：　ゼミの内容を踏襲し、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル：　課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル：　課題解決の提案がない
発表・その他（無形成果）	発表等も、講義の中で行います。出席していないと、発表もできませんので注意してください。 Sレベル：　客観的な説明に加え、聴衆を引き付ける魅力的な発表を行っている。 Aレベル：　客観的に論理的に発表している。 Bレベル：　客観的ではないが、相手に伝わるよう発表している。 Cレベル：　発表の内容が相手に伝わらない。